

8.8 動物

8.8 動物【簡略化項目】

8.8.1 現況調査

(1) 調査内容

調査の内容は、表8.8-1に示すとおりであり、仙台市宮城野区蒲生に位置し国指定仙台海浜鳥獣保護区である蒲生特別保護地区（以下、「蒲生干潟」という。）における「動物相及び注目すべき種」を把握することとした。

表 8.8-1 調査内容（動物）

項目	調査内容
動物	蒲生干潟における動物相及び注目すべき種

(2) 調査方法

① 既存資料調査

既存資料調査における調査方法は、表8.8-2のとおりとした。

表 8.8-2 調査方法（動物：既存資料調査）

調査内容	調査方法
蒲生干潟における動物相及び注目すべき種	蒲生干潟において動物の現地調査結果が報告されている、「グリーン復興プロジェクトしおかぜ自然環境ログ」（環境省自然環境局生物多様性センターHP）に掲載されている調査結果報告等を収集し、各既存資料に掲載されている出現種を整理した上で、注目すべき種を選定した。また、注目すべき種については、生息環境や種の特性等について把握した。 蒲生干潟では、東日本大震災の影響により環境に変化が生じていた可能性が考えられることから、震災後に蒲生干潟で現地調査が実施された結果が掲載されている資料として、表8.8-3に示す既存資料を調査対象とした。既存資料における調査方法は、表8.8-4のとおりである。 また、注目すべき種を選定基準は、表8.8-5・6のとおりとした。

表 8.8-3 収集した既存資料（動物）

資料番号	収集した既存資料	調査項目					
		哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	昆虫類	底生動物
①	「平成25年度東北地方太平洋沿岸地域植生・湿地変化状況等調査調査報告書」（平成26年、環境省自然環境局生物多様性センター）	○	○	○	○*	○	○
②	「平成26年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査 調査報告書」（平成27年 環境省自然環境局生物多様性センター）	○	○	○	○	○	○
③	「平成27年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査 調査報告書」（平成28年、環境省自然環境局生物多様性センター）	○	○	○	○*	○	○
④	「平成23年度 東日本大震災による自然公園等への影響調査業務報告書 上巻」（平成23年、株式会社プレック研究所）	○	○				○
⑤	「平成24年度国指定仙台海浜鳥獣保護区鳥類モニタリング調査業務報告書」（平成25年、公益財団法人 日本鳥類保護連盟）		○				
⑥	「平成25年度 国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務報告書」（平成26年、環境省東北地方環境事務所）		○				○
⑦	「平成26年度 国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務報告書」（平成27年、環境省東北地方環境事務所）		○				○
⑧	「平成27年度 国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務＝震災後の鳥類の利用状況等の把握＝報告書」（平成28年、環境省東北地方環境事務所）		○				○
⑨	「平成28年度 国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務報告書」（平成29年、環境省東北地方環境事務所）		○				
⑩	「平成27 年度国指定仙台海浜鳥獣保護区におけるコクガン生息状況調査業務調査報告書」（平成28年、日本野鳥の会 宮城県支部）		○				
⑪	「平成28 年度国指定仙台海浜鳥獣保護区におけるコクガン生息状況調査業務調査報告書」（平成29年 環境省 東北地方環境事務所）		○				
⑫	「モニタリングサイト1000」（ガンカモ類調査）（平成30年11月閲覧、環境省HP）		○				
⑬	「モニタリングサイト1000」（シギ・チドリ類調査）（平成30年11月閲覧、環境省HP）		○				
⑭	「自然豊かな蒲生干潟 継続観察プロジェクト 仙台市科学館蒲生調査レポート」（平成30年11月閲覧、スリーエム仙台市科学館HP）		○	○			○
⑮	「高砂市民センター 仙台・蒲生の自然」（平成30年11月閲覧、仙台市市民センターHP）	○	○			○	○
⑯	「平成24年度 東北地方太平洋沿岸地域自然環境調査等業務報告書」（平成25年、環境省自然環境局生物多様性センター）						○
⑰	「平成26年度 東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査 調査報告書」（平成27年、環境省自然環境局生物多様性センター）						○
⑱	「平成27年度 東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査 調査報告書」（平成28年、環境省自然環境局生物多様性センター）						○

注：※は、調査項目に含まれているが、出現が確認されなかった項目を示す。

表 8.8-4 既存資料における調査方法（動物）

資料番号	調査方法												
①	<p>【動物相調査】 砂浜や海域、非耕作農地、造成地といった面積が大きく連続性を考慮する上で重要な環境を区分し、典型的な箇所において、目視確認による動物相調査を実施した。また、稀少な動植物、特定外来生物などを記録し、写真撮影を行った。</p>												
②	<p>なお、環境区分は、開放水域、砂浜、干潟、河川、湿地、被災樹林、耕作農地、非耕作農地、宅地跡の9区分とした。</p>												
③	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>調査内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>哺乳類</td> <td>環境区分毎にフィールドサイン法、任意観察調査を実施した。</td> </tr> <tr> <td>一般鳥類</td> <td>環境区分毎に任意観察調査を実施した。猛禽類を含む。</td> </tr> <tr> <td>両生類・爬虫類</td> <td>環境区分毎に任意観察調査を実施した。</td> </tr> <tr> <td>昆虫類</td> <td>陸生昆虫及び水生昆虫について、環境区分毎に任意観察調査を実施した。</td> </tr> <tr> <td>底生動物</td> <td>水域あるいは新たな湿地において、代表的な地点でサンプルを採集し同定した。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	調査内容	哺乳類	環境区分毎にフィールドサイン法、任意観察調査を実施した。	一般鳥類	環境区分毎に任意観察調査を実施した。猛禽類を含む。	両生類・爬虫類	環境区分毎に任意観察調査を実施した。	昆虫類	陸生昆虫及び水生昆虫について、環境区分毎に任意観察調査を実施した。	底生動物	水域あるいは新たな湿地において、代表的な地点でサンプルを採集し同定した。
項目	調査内容												
哺乳類	環境区分毎にフィールドサイン法、任意観察調査を実施した。												
一般鳥類	環境区分毎に任意観察調査を実施した。猛禽類を含む。												
両生類・爬虫類	環境区分毎に任意観察調査を実施した。												
昆虫類	陸生昆虫及び水生昆虫について、環境区分毎に任意観察調査を実施した。												
底生動物	水域あるいは新たな湿地において、代表的な地点でサンプルを採集し同定した。												
④	<p>【モニタリング調査（生物相の概要把握）】 移動可能なルートを移動しながら、鳥類相、生物相を調査し、確認された種について記録した。</p>												
⑤	<p>【鳥類調査】 ラインセンサス法、定点観察法を行った。国指定鳥獣保護区指定理由であるシギ・チドリ類及びガンカモ類の生息地として重要である干潟を重点的に観察した。</p>												
⑥													
⑦	<table border="1"> <thead> <tr> <th>調査方法</th> <th>調査内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ラインセンサス法</td> <td>調査ルートの上側に出現した鳥類の種名、個体数、確認状況、確認された環境、繁殖に係る行動等を記録した。</td> </tr> <tr> <td>定点観察法</td> <td>調査定点から双眼鏡及び直視型望遠鏡を用いて、観察される鳥類の種名、個体数、確認位置、確認状況（採餌、休憩等）、確認された環境類型区分、繁殖に係る行動等を記録した。</td> </tr> </tbody> </table>	調査方法	調査内容	ラインセンサス法	調査ルートの上側に出現した鳥類の種名、個体数、確認状況、確認された環境、繁殖に係る行動等を記録した。	定点観察法	調査定点から双眼鏡及び直視型望遠鏡を用いて、観察される鳥類の種名、個体数、確認位置、確認状況（採餌、休憩等）、確認された環境類型区分、繁殖に係る行動等を記録した。						
調査方法	調査内容												
ラインセンサス法	調査ルートの上側に出現した鳥類の種名、個体数、確認状況、確認された環境、繁殖に係る行動等を記録した。												
定点観察法	調査定点から双眼鏡及び直視型望遠鏡を用いて、観察される鳥類の種名、個体数、確認位置、確認状況（採餌、休憩等）、確認された環境類型区分、繁殖に係る行動等を記録した。												
⑧													
⑨	<p>【底生動物調査】 深さ20cm程度までの砂泥を採集し、目合2mmの篩を使い底生動物を採集した。採集したサンプルは可能な限り分析した。</p>												
⑩	<p>【コクガン生息状況調査】 蒲生海岸におけるコクガン生息の要因、生息への脅威とその回避行動を把握するため、次の項目について調査を行った。個体数、飛来及び飛去の方向、利用位置、行動、群構成（家族、若鳥）、移動、その他（コクガンの生息に関して気づいたことは全て記録する）。観察定点は、コクガンの飛来地が見やすい場所、しかしその行動に影響を与えない遮蔽物のある場所を選定した。</p>												
⑪													
⑫	<p>ハクチョウ、ガン、カモ、カイツブリ、バン仲間を対象種として、秋と春の渡り時期及び、冬の越冬時期に個体数のカウントを実施した。</p>												
⑬	<p>シギ・チドリ類、絶滅危惧種のズグロカモメ・クロツラヘラサギ・ヘラサギ・ツクシガモの個体数調査及び調査サイト周辺の環境状況の調査を行った。</p>												
⑭	<p>東日本大震災によって大きな被害を受けた蒲生干潟が、豊かな干潟として回復する過程を科学の視点（動植物や地形、塩分濃度等）で継続観察しているが、調査方法の詳細は不明である。</p>												
⑮	<p>蒲生干潟の海岸風景と観察した野鳥や生物を写真と共に紹介しているが、調査方法の詳細は不明である。</p>												
⑯	<p>深さ20cm程度までの砂泥を採集し、目合2mmの篩を使い底生動物を採集した。採集したサンプルは可能な限り分析した。生息密度が低い、移動性が高い、あるいは底質深くに生息する生物種は、調査面積・深度が限られる定量調査では把握できないことから、これらの生物の存在を確認するため定性調査を実施した。</p>												
⑰													
⑱													

注：「資料番号」の①～⑱は、表8.8-3の資料番号に対応する。

表 8.8-5 注目すべき動植物種の選定基準（動物）

判断基準	記号等	説明
レッドデータ等	文化財保護法	特天 「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）における特別天然記念物
		天 「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）における天然記念物
	種の保存法	国内 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」（平成4年法律第75号）における国内希少野生動植物
		国際 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」（平成4年法律第75号）における国際希少野生動植物
	環境省RL2018 「環境省レッドリスト2018」（環境省、平成30年）掲載種	EX 絶滅
		EW 野生絶滅
		CR 絶滅危惧ⅠA類
		EN 絶滅危惧ⅠB類
		VU 絶滅危惧Ⅱ類
		NT 準絶滅危惧
		DD 情報不足
		LP 絶滅のおそれのある地域個体群
	環境省海洋生物RD 「環境省レッドリスト2017」（環境省、平成29年）掲載種	EX 絶滅
		EW 野生絶滅
		CR 絶滅危惧ⅠA類
		EN 絶滅危惧ⅠB類
		VU 絶滅危惧Ⅱ類
		NT 準絶滅危惧
		DD 情報不足
		LP 絶滅のおそれのある地域個体群
	宮城県RDB 「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」（宮城県、平成28年）掲載種	EX 絶滅
		EW 野生絶滅
		CR+EN 絶滅危惧Ⅰ類
		VU 絶滅危惧Ⅱ類
		NT 準絶滅危惧
		DD 情報不足
	要 要注目種	
仙台市における保全上重要な種の区分	学術上重要種	1 仙台市においてもともと稀産あるいは希少である種。あるいは生息地・生育地がごく限られている種。
		2 仙台市周辺地域が分布の北限、南限となる種。
		3 仙台市が模式産地（タイプロカリティー）となっている種。
		4 1、2、3には該当しないが、各分類群において、注目に値すると考えられる種（継続的に観察・研究されている種など。）。
	減少種	EX 絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種。
		EW 野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種。
		A 現在ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある種。
		B 減少が著しい、あるいは近い将来著しい減少のおそれがある種。
		C 減少している、あるいは近い将来減少のおそれがある種。
		＋ 普通に見られる、あるいは当面減少のおそれがない種。
		/ もともと生息・生育しない可能性が非常に大きい。
	・ 判断に資する情報がない。	
	環境指標種	○ 仙台市の各環境分類における環境を指標する種（ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標。）。

〔平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書〕（平成29年、仙台市）より作成

表 8.8-6 注目すべき種の選定基準における減少種の地域区分（動物）

No.	地域区分	
1	山地地域	
2	西部丘陵地・田園地域	
3	市街地地域	
4	東部田園地域	
5	海浜地域（後背の樹林も含む）	

注：計画地は、「市街地地域」に位置する。

〔「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年、仙台市）
 「杜の都環境プラン 仙台市環境基本計画2011-2020（改定版）」（平成28年3月、仙台市）より作成〕

(3) 調査地域及び調査地点

① 既存資料調査

ア. 調査地域等

調査地域は蒲生干潟とし、「8.7 植物」と同様に図8.7-1に示す範囲を基本とした。

蒲生干潟の植生は、干潟環境の自然裸地及び開放水域が大半を占めているが、クロマツ植林、ヨシクラス、塩沼地植生、路傍・空地雑草群落等も分布しており、多様な環境類型区分となっている。

なお、収集した既存資料には、図8.7-1に示す調査地域周辺で確認された種も含まれる可能性が考えられるが、蒲生干潟における環境類型区分の多様性を勘案し、既存資料に示される確認種の全てについて蒲生干潟で確認されたものと見なした。

(4) 調査期間等

調査対象とする既存資料は、東日本大震災発生（平成23年3月11日）以降に現地調査が実施されたものとした。

各既存資料における調査期日は、表8.8-7のとおりである。

表 8.8-7 既存資料における調査期日（動物）

資料番号	既存資料名	調査期日
①	「平成25年度東北地方太平洋沿岸地域植生・湿地変化状況等調査 調査報告書」	哺乳類：平成25年9月24日、鳥類：平成25年9月24日、両生類：平成25年9月24日、爬虫類：平成25年9月24日、昆虫類：平成25年7月14日、10月21日、底生動物：平成25年9月24日
②	「平成26年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査 調査報告書」	哺乳類：平成26年7月16日・10月11日、鳥類：平成26年7月28日・9月22日、両生類：平成26年7月16日・10月11日、爬虫類：平成26年7月16日・10月11日、昆虫類：平成26年7月16日・10月11日、底生動物：平成26年7月16日・10月11日
③	「平成27年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査 調査報告書」	哺乳類：平成27年8月4日・10月10日、鳥類：平成27年8月4日・10月10日、両生類：平成27年8月4日・10月10日、爬虫類：平成27年8月4日・10月10日、昆虫類：平成27年8月4日・9月20日、底生動物：平成27年8月4日・10月10日
④	「平成23年度 東日本大震災による自然公園等への影響調査業務報告書 上巻」	平成23年6月29日・7月22日・8月19日・9月16日・10月14日・11月10日
⑤	「平成24年度国指定仙台海浜鳥獣保護区鳥類モニタリング調査業務 報告書」	平成24年4月～平成25年3月、各月1～3回
⑥	「平成25年度 国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務報告書」	平成25年7月27日～28日・8月22日～23日・9月19日～20日・10月23日～24日・11月19日～20日・12月16日～17日・平成26年1月6日～7日・1月27日～28日、底生動物：平成25年8月19日～20日・11月14日～15日
⑦	「平成26年度 国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務報告書」	平成26年6月14日～15日・7月13日・25日・8月25日・9月9日・10月10日・11月7日・12月8日・平成27年1月6日～7日、底生動物：平成26年8月12日・10月8日・10日
⑧	「平成27年度 国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務＝震災後の鳥類の利用状況等の把握＝報告書」	平成27年6月1日～2日・23日～24日・7月15日・8月10日・28日・9月14日・10月14日・11月10日・12月9日・平成28年1月8日、底生動物：平成27年7月30日・10月14日
⑨	「平成28年度 国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務報告書」	平成28年4月19日・5月6日・6月19日・7月18日・8月20日・9月17日・10月3日・16日・11月14日・12月16日・平成29年1月13日
⑩	「平成27年度国指定仙台海浜鳥獣保護区におけるコクガン生息状況調査業務調査報告書」	平成27年12月13日・20日・27日・平成28年1月9日・16日・23日・28日・31日・2月6日・11日・14日・27日
⑪	「平成28年度国指定仙台海浜鳥獣保護区におけるコクガン生息状況調査業務調査報告書」	平成28年12月11日・17日・25日・平成29年1月3日・8日・14日・22日・28日・2月4日・18日
⑫	「モニタリングサイト1000」（ガンカモ類調査）	平成24～29年の各年において以下の時期 春期調査：2月～5月、秋期調査：9月～11月、冬期調査：12月～1月
⑬	「モニタリングサイト1000」（シギ・チドリ類調査）	平成24～29年の各年において以下の時期 春期調査：4月～5月、秋期調査：8月～9月、冬期調査：12月～2月
⑭	「自然豊かな蒲生干潟 継続観察プロジェクト 仙台市科学館蒲生調査レポート」	平成23年4月13日に初回調査、以降、毎月数日調査
⑮	「高砂市民センター 仙台・蒲生の自然」	平成28年11月13日・12月5日・平成29年1月22日・2月19日・3月12日・4月23日・29日・5月4日・12日・6月18日・7月9日・30日・8月20日・24日、底生動物：平成29年3月12日・4月29日・7月9日・30日・8月20日・24日（記述がある日、上記とはすべて重なる）
⑯	「平成24年度 東北地方太平洋沿岸地域自然環境調査等業務報告書」	平成24年7月19日
⑰	「平成26年度 東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査 調査報告書」	平成26年6月16日
⑱	「平成27年度 東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査 調査報告書」	平成27年7月2日

(5) 調査結果

① 既存資料調査

ア. 哺乳類

(7) 確認種

既存資料調査の結果は表8.8-8のとおりであり、2目2科3種が確認された。

表 8.8-8 哺乳類の確認種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	既存資料				
				①	②	③	④	⑮
1	モグラ(食虫)	モグラ	アズマモグラ		○	○		
2	ネコ(食肉)	イヌ	タヌキ		○	○		
3			キツネ	○	○		○	○
計	2目	2科	3種	1種	3種	2種	1種	1種

注：1. 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度生物リスト」（平成30年、国土交通省）に準拠した。

2. 「既存資料」の①～⑮は、表8.8-3の資料番号に対応する。

(4) 注目すべき種

確認された哺乳類のうち、表8.8-5・6に示した選定基準に該当する注目すべき種はなかった。

イ. 鳥類

(7) 確認種

既存資料調査の結果は表8.8-9のとおりであり、16目39科140種が確認された。

表 8.8-9(1) 鳥類の確認種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	既存資料																
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮		
1	キジ	キジ	キジ	○	○			○	○	○	○	○								
2	カモ	カモ	コクガン					○		○	○	○	○	○	○			○		
3			コハクチョウ							○	○									
4			オオハクチョウ	○						○						○				
5			オカヨシガモ	○		○				○	○	○	○				○			
6			ヨシガモ							○	○	○				○				
7			ヒドリガモ	○		○	○	○	○	○	○	○				○			○	
8			アメリカヒドリ					○			○					○				
9			マガモ	○		○	○	○	○	○	○	○				○			○	○
10			カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○			○	○
11			ハシビロガモ		○	○		○		○	○	○				○			○	
12			オナガガモ	○		○	○	○	○	○	○	○				○			○	○
13			コガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○				○
14			ホシハジロ					○	○	○	○	○				○			○	
15			キンクロハジロ			○		○	○	○	○	○				○			○	
16			スズガモ			○		○	○	○	○	○				○			○	
17			ピロードキンクロ						○							○				
18			クロガモ													○				
19			ホオジロガモ					○	○	○	○	○				○			○	
20			ミコアイサ					○		○	○	○				○			○	
21			カワアイサ					○	○	○						○				

表 8.8-9(2) 鳥類の確認種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	既存資料																
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮		
22	カモ	カモ	ウミアイサ									○				○			○	
23	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							
24			カンムリカイツブリ		○	○		○	○	○	○	○						○	○	
25			ミミカイツブリ							○	○		○							
26			ハジロカイツブリ							○		○								
27	ハト	ハト	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○								
28			カワラバト		○			○				○								
29	アビ	アビ	シロエリオオハム									○								
30	カツオドリ	ウ	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○								
31			ウミウ	○						○	○	○								
32	ペリカン	サギ	サンカノゴイ										○							
33			ヨシゴイ			○						○	○							
34			ゴイサギ					○	○	○		○								
35			ササゴイ		○		○				○	○	○							
36			アマサギ				○													
37			アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○	
38			ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○	○
39			チュウサギ	○									○	○					○	
40			コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							○
41			カラシラサギ										○	○						
42	ツル	クイナ	クイナ								○	○	○							
43			バン	○	○	○	○	○			○	○	○							
44			オオバン	○	○	○		○	○	○	○	○							○	
45	カッコウ	カッコウ	カッコウ									○								
46	チドリ	チドリ	タグリ															○		
47			ムナグロ				○						○					○		
48			ダイゼン	○	○	○				○		○	○					○		
49			ハジロコチドリ										○						○	
50			イカルチドリ					○												
51			コチドリ		○	○	○	○			○	○	○						○	○
52			シロチドリ		○				○	○	○	○	○						○	○
53			メダイチドリ	○							○	○	○	○					○	○
54			オオメダイチドリ																○	
55			ミヤコドリ	ミヤコドリ																○
56		セイタカシギ	セイタカシギ										○					○	○	
57		シギ	オオジシギ															○		
58			タシギ			○							○	○				○		
59			オグロシギ			○						○	○							
60			オオソリハシシギ	○		○			○	○		○	○					○	○	
61			チュウシャクシギ					○					○					○	○	
62			ホウロクシギ	○							○							○	○	
63			アカアシシギ			○						○								
64			コアオアシシギ											○						
65			アオアシシギ		○	○	○			○	○	○	○					○	○	
66	キアシシギ			○	○	○	○	○	○	○	○	○					○	○		
67	ソリハシシギ			○		○				○	○	○					○			
68	イソシギ				○	○	○			○	○	○					○			
69	キョウジョシギ						○			○							○			
70	オバシギ				○	○			○	○	○	○					○			
71	コオバシギ		○								○	○								

表 8.8-9(3) 鳥類の確認種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	既存資料																				
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮						
72	チドリ	シギ	ミュビシギ				○				○	○	○					○	○	○				
73			トウネン			○	○	○	○	○	○	○	○						○		○			
74			サルハマシギ																	○				
75			ハマシギ				○		○	○	○	○	○	○						○	○	○		
76			キリアイ						○											○				
77			エリマキシギ				○							○						○				
78			カモメ	ユリカモメ					○	○			○	○	○						○			
79	チドリ	カモメ	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							○				
80			カモメ					○	○	○	○	○	○											
81			セグロカモメ						○	○	○		○											
82	チドリ	カモメ	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○											
83			ハシブトアジサシ										○											
84			コアジサシ						○															
85			アジサシ											○										
86			ウミスズメ	ウミスズメ																		○		
87	タカ	ミサゴ	ミサゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○											
88		タカ	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○									○		
89		ハイタカ										○												
90		オオタカ				○	○	○	○			○	○											
91		ノスリ				○	○		○	○	○	○	○											
92	フクロウ	フクロウ	コムミズク																			○		
93	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ		○	○	○	○	○	○	○	○	○											
94	キツツキ	キツツキ	コゲラ	○	○				○															
95			アカゲラ																				○	
96			アオゲラ																					○
97	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ		○	○	○	○	○	○	○	○	○											
98			コチョウゲンボウ										○											
99			ハヤブサ	○				○			○	○												○
100	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ																			○		
101		モズ	モズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○											
102		カラス	カケス																				○	
103			オナガ																				○	
104			ミヤマガラス																					○
105			ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										○
106			ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
107			シジュウカラ	シジュウカラ	○	○			○	○	○	○	○	○										
108		ヒバリ	ヒバリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○											
109		ツバメ	ショウドウツバメ																				○	
110			ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
111			イワツバメ							○														
112		ヒヨドリ	ヒヨドリ			○	○	○	○	○	○	○	○											
113		ウグイス	ウグイス	○			○					○	○	○										
114		メジロ	メジロ																				○	
115	センニュウ	オオセッカ				○																		
116	ヨシキリ	オオヨシキリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○												
117		コヨシキリ			○	○			○	○	○	○	○											
118	セッカ	セッカ	○	○	○					○	○	○	○											
119	ムクドリ	ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○												
120	ヒタキ	ツグミ						○	○	○	○	○										○		
121		ジョウビタキ					○	○	○	○	○	○												

表 8.8-9(4) 鳥類の確認種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	既存資料															
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	
122	スズメ	ヒタキ	ノビタキ		○														
123			イソヒヨドリ				○				○	○	○						
124			キビタキ			○													
125		スズメ	スズメ		○	○	○	○	○	○	○	○	○						
126		セキレイ	ハクセキレイ		○	○	○	○	○	○	○	○	○						
127			セグロセキレイ				○		○		○		○						
128			ピンズイ										○						
129		セキレイ	タヒバリ								○	○							
130		アトリ	アトリ								○								
131			カワラヒワ		○	○	○	○	○	○	○	○	○						
132			マヒワ						○	○									
133			ベニマシコ					○				○	○	○					
134			ウソ									○							
135			シメ									○							
136	ホオジロ	ホオジロ		○	○	○	○	○	○	○	○	○							
137		ホオアカ		○			○		○	○	○	○							
138		カシラダカ					○			○		○							
139		アオジ			○	○	○	○	○	○	○	○							
140		オオジュリン					○		○	○	○	○							
計	16 目	39 科	140 種	44 種	53 種	57 種	53 種	68 種	69 種	87 種	86 種	102 種	1 種	1 種	20 種	26 種	23 種	23 種	

注：1. 種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」（平成24年、日本鳥学会）に準拠した。
 2. 「既存資料」の①～⑮は、表8.8-3の資料番号に対応する。

(イ) 注目すべき種

確認された鳥類のうち、表8.8-5・6に示した選定基準に該当する注目すべき種は、表8.8-10のとおりであり、12目27科51種が確認された。

また、注目すべき種の特性及び確認状況は、表8.8-11のとおりである。

表 8.8-10(1) 鳥類の注目すべき種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	調査時期				注目すべき種の選定基準												
				春 季	夏 季	秋 季	冬 季	文化財 保護法	種の 保存法	環境省 RL2018	宮城県 RDB	仙台市					環境 指標種			
												学術上 重要	減少種							
									1	2	3		4	5						
1	カモ	カモ	コクガン	●			●	天		VU	VU	1,2,4	/	/	/	・	B			
2	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	●	●	●	●						・	C	B	C	C	○		
3	ペリカン	サギ	サンカノゴイ				●			EN	NT	1	・	B	A	B	B			
4			ヨシゴイ		●	●					NT	NT	1,4	・	C	B	C	C	○	
5			アマサギ		●								4	・	・	A	+	・	○	
6			チュウサギ		●	●						NT		1,2,4	・	C	A	C	C	
7			コサギ		●	●	●	●							・	C	B	+	+	○
8			カラシラサギ		●	●						NT	DD							
9	ツル	クイナ	クイナ			●	●					要	1,4	・	C	A	B	B		
10			バン		●	●	●						1,4	・	C	B	C	C	○	
11			オオバン		●	●	●	●							・	・	・	B	B	
12	カッコウ	カッコウ	カッコウ		●							1,4	C	C	B	C	C	○		

表 8.8-10(2) 鳥類の注目すべき種（既存資料調査結果）

No.	目名	科名	種名	調査時期				注目すべき種の選定基準												
				春季	夏季	秋季	冬季	文化財保護法	種の保存法	環境省 RL2018	宮城県 RDB	仙台市					環境指標種			
												学術上重要	減少種							
											1	2	3	4	5					
13	チドリ	チドリ	イカルチドリ				●					1,4	C	C	B	B	・	○		
14			シロチドリ	●	●	●	●			VU	NT		1,4	・	・	・	・	B	○	
15			メダイチドリ	●	●	●				国際										
16			オオメダイチドリ	●						国際										
17		セイタカシギ	セイタカシギ	●		●				VU										
18		シギ	オオジシギ	●						NT	NT		1,4	B	B	A	B	B		
19			オオソリハシギ	●		●				VU										
20			ホウロクシギ	●		●				国際	VU	NT	1,4	・	・	・	・	B		
21			アカアシシギ		●	●				VU			1	・	・	・	B	B		
22			オバシギ		●	●				国際										
23			コオバシギ		●	●				国際										
24			サルハマシギ			●				国際										
25			ハマシギ	●		●	●			NT			1,4	・	・	・	・	C	○	
26		カモメ	コアジサシ		●				国際	VU	VU	1,2,4	・	・	A	B	B			
27	ウミスズメ	ウミスズメ	●						CR		1,4	/	/	/	/	・				
28	タカ	ミサゴ	ミサゴ	●	●	●	●		NT			1,4	・	・	・	C	C	○		
29		タカ	ハイタカ			●			NT	NT		1,4	C	C	C	C	C			
30			オオタカ		●	●	●			NT	NT	1,4	C	C	B	B	C	○		
31			ノスリ		●	●	●							+	C	C	C	・	○	
32	フクロウ	フクロウ	コミミズク				●				要	1	・	B	A	B	B	○		
33	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ		●	●	●					1,4	・	C	C	C	・	○		
34	キツツキ	アカゲラ			●								+	C	B	C	C			
35		アオゲラ			●									+	C	B	C	○		
36	ハヤブサ	チョウゲンボウ		●	●	●						1,4	・	C	B	C	B			
37		ハヤブサ		●	●	●			国内	VU	NT	1,4	C	B	B	B	B			
38	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ			●			VU	VU			C	C	B	C	C			
39		モズ	モズ	●	●	●	●					1	+	C	B	C	C	○		
40		ヒバリ	ヒバリ	●	●	●	●							・	C	B	C	○		
41		ツバメ	ツバメ	●	●	●								・	C	C	C	○		
42		ウグイス	ウグイス	●	●	●	●					1,4	+	+	C	C	C	○		
43		センニュウ	オオセッカ			●			国内	EN	VU	1,3,4	・	・	・	・	・			
44		ヨシキリ	オオヨシキリ	●	●	●							1,4	・	C	B	C	○		
45			コヨシキリ		●	●							1,4	・	C	A	C	○		
46		セッカ	セッカ	●	●	●	●					1,4	・	C	B	C	○			
47		ヒタキ	キビタキ			●								+	C	B	・	○		
48		セキレイ	セグロセキレイ		●	●	●					4	C	C	C	C	・			
49		ホオジロ	ホオジロ	●	●	●	●							+	+	B	C	○		
50			ホオアカ		●	●								B	C	A	C	○		
51			アオジ	●	●	●	●							C	C	C	C	○		
計	12 目	27 科	51 種	24 種	32 種	40 種	23 種	1 種	9 種	20 種	15 種	30 種	43 種	43 種	43 種	43 種	43 種	26 種		

注：1. 種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」（平成24年、日本鳥学会）に準拠した。

2. 確認時期は、「気象庁HP 気象庁が天気予報等で用いる予報用語」に基づき、3～5月を春季、6～8月を夏季、9～11月を秋季、12～2月を冬季とした。

3. 注目すべき種の選定基準の区分は、表8.8-5・6のとおりである。

表 8.8-11(1) 注目すべき種の特性及び確認状況（コクガン）

種名		コクガン				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	天			種の保存法	-
	環境省RL	VU			宮城県RDB	VU
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	1,2,4	/	/	/	・	B
種 の 特 性 (※)	全国分布	主な越冬地は、東北地方北部から北海道南部の太平洋側の海岸。少数だが東海地方でも不定期に越冬する。				
	仙台市内の分布	東部海岸、七北田川河口。				
	形態	全長61cm。頭部から頸と胸が黒く、頸に頸輪状の白色部があり、内側に筋状の黒色部が入る。背面と腹部は黒褐色で脇腹は白っぽく、黒褐色の筋状の斑がある。尾は黒く、上・下尾筒は白い。				
	生息環境	越冬地では、海岸の入り江や内湾の砂浜、遠浅の砂泥地などに生息。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
⑤	平成24年度の冬季（12～2月）及び春季（3月）調査時に生息を確認した。			-	35	
⑦	平成26年度の冬季（12月～1月）調査時に生息を確認した。			5	140	
⑧	平成27年度の冬季（1月）調査時に生息を確認した。			1	30	
⑨	平成28年度の冬季（12月～1月）調査時に生息を確認した。			2	90	
⑩	平成27年度の冬季（12月～2月）調査時に生息を確認した。			-	-	
⑪	平成28年度の冬季（12月～2月）調査時に生息を確認した。			-	-	
⑫	平成23年度～平成29年度の冬季（12～2月）及び春季（3月）調査時に確認した。			-	-	
⑮	平成28年度の冬季（12月）調査時に水域で生息を確認した。			-	-	
合計					295	

表 8.8-11(2) 注目すべき種の特性及び確認状況（カイツブリ）

種名		カイツブリ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-
	環境省RL	-			宮城県RDB	-
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜	
	・	C	B	C	C	○
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。				
	仙台市内の分布	朴沢、丸田沢、旗立、井土浦、大沼、蒲生など。				
	形態	全長26cm。成鳥夏羽の頭は黒く、顔から頸は赤褐色。冬羽は全体的にやや淡色になる				
	生息環境	平地から山地の湖沼、池、河川、河口、内湾などに生息。				
番号	確認状況			地点数	確認数	
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に開放水域で生息を確認した。			-	-	
②	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-	
③	平成27年度の夏季（8月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-	
④	平成23年度の夏季（8月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			2	2	
⑤	平成24年度の冬季（12～2月）及び春季（3月）調査時に生息を確認した。			-	16	
⑥	平成25年度の秋季（10～11月）及び冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			10	17	
⑦	平成26年度の夏季（8月）及び秋季（9～11月）、冬季（12月～1月）調査時に生息を確認した。			23	97	
⑧	平成27年度の夏季（6～8月）及び秋季（9～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			34	99	
⑨	平成28年度の春季（4～5月）及び夏季（6～7月）、秋季（9～11月）、冬季（12月～1月）調査時に生息を確認した。			22	59	
合計					290	

表 8.8-11(3) 注目すべき種の特性及び確認状況（サンカノゴイ）

種名		サンカノゴイ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法		-	
	環境省RL	EN			宮城県RDB		NT	
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
1	・	B	A	B	B			
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。						
	仙台市内の分布	蒲生、井土浦など。						
	形態	全長76cm。頸や胴の太いずんぐりした体形で、頸は短く見えるが、のぼすと長い。飛翔時は翼が幅広く大きく、静止時より体は細く見える。						
	生息環境	湖沼や池、河川、湿地などの広大なアシ原に生息。						
番号	確認状況				地点数	確認数		
⑨	平成28年度の冬季（12月）調査時に生息を確認した。				1	1		
合計						1		

表 8.8-11(4) 注目すべき種の特性及び確認状況（ヨシゴイ）

種名		ヨシゴイ						
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法		-	
	環境省RL	NT			宮城県RDB		NT	
	仙台市							
	学術上 重要種	減少種						環境 指標種
		山地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
1,4	・	C	B	C	C	○		
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。						
	仙台市内の分布	七北田川、蒲生、中田、種次、広瀬川、大沼、南長沼など。						
	形態	全長37cm。成鳥雄は上面が茶褐色で、頭頂は青味のある黒色。喉からの体下面は淡い黄白色で、淡茶褐色の縦斑が中央にある。成鳥雌は頭の暗青色は後頭だけで、喉の下の縦線がはっきりと5本ある。						
	生息環境	アシ原、水田、湿地、湖沼、池、河川などに生息。						
番号	確認状況				地点数	確認数		
③	平成27年度の夏季（8月）調査時に生息を確認した。				-	-		
⑧	平成27年度の夏季（6月）調査時に生息を確認した。				1	1		
⑨	平成28年度の秋季（10月）調査時に生息を確認した。				1	1		
合計						2		

表 8.8-11(5) 注目すべき種の特性及び確認状況（アマサギ）

種 名		アマサギ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-
	環境省RL	-			宮城県RDB	-
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山 地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜	
4	・	・	A	+	・	○
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。				
	仙台市内の分布	井土浦、中野、岡田、南蒲生、蒲生など。				
	形 態	全長50cm。コサギより一回り小さい。成鳥夏羽は頭から頸にかけてと、背に橙黄色の飾り羽がある。成鳥冬羽では全体的に白く、頭頂にわずかに黄色味がある。				
	生息環境	水田、湿地、草地、放牧地などに生息。				
番 号	確認状況			地点数	確認数	
④	平成23年度の夏季（7月）調査時に生息を確認した。			1	1	
合 計					1	

表 8.8-11(6) 注目すべき種の特性及び確認状況（チュウサギ）

種 名		チュウサギ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-
	環境省RL	NT			宮城県RDB	-
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山 地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜	
1,2,4	・	C	A	C	C	
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。				
	仙台市内の分布	蒲生二本木、蒲生海岸、大沼、赤沼、南長町、南蒲生など。				
	形 態	全長68cm。成鳥夏羽は嘴が黒く、喉元と背面に飾り羽がある。成鳥冬羽では飾り羽がなく、嘴は橙黄色で、上嘴の先端にわずかに黒い部分がある。				
	生息環境	草地、水田、湿地、湖沼、池などに生息。まれに干潟や河川にも入る。				
番 号	確認状況			地点数	確認数	
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に開放水域で生息を確認した。			-	-	
⑧	平成27年度の夏季（8月）調査時に生息を確認した。			2	5	
⑨	平成28年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。			1	1	
⑭	平成27年度の秋季（11月）調査時に生息を確認した。			-	-	
合 計					6	

表 8.8-11(7) 注目すべき種の特性及び確認状況（コサギ）

種 名		コサギ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-
	環境省RL	-			宮城県RDB	-
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山 地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜	
	・	C	B	+	+	○
種 の 特 性 (※)	全国分布	本州～九州。				
	仙台市内の分布	広瀬川、名取川、天神沢、大沼、赤沼、蒲生二木、蒲生海岸など。				
	形 態	全長61cm。一年中嘴が黒くて、足の指が黄色い。成鳥夏羽は後ろ頭に2本の長い冠羽があり、胸、肩羽と背面の羽毛が飾り羽になる。成鳥冬羽では飾り羽が短くなって目立たなくなる。				
	生息環境	河川、水田、湖沼、池、湿地、河口、干潟、海岸などに生息。				
番 号	確認状況			地点数	確認数	
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-	
②	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（9月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-	
③	平成27年度の夏季（8月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-	
④	平成23年度の夏季（6～8月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			6	25	
⑤	平成24年度の春季（4～5月）及び夏季（6～8月）、秋季（9～11月）調査時に生息を確認した。			-	54	
⑥	平成25年度の夏季（7～8月）及び秋季（9～11月）及び冬季（1月）調査時に生息を確認した。			19	30	
⑦	平成26年度の夏季（6～8月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			23	28	
⑧	平成27年度の夏季（7～8月）及び秋季（9～11月）、冬季（12月）調査時に生息を確認した。			20	46	
⑨	平成28年度の春季（4～5月）及び夏季（7～8月）、秋季（9～11月）調査時に生息を確認した。			36	85	
⑩	平成28年度の秋季（11月）調査時に水域で生息を確認した。			-	-	
合 計					268	

表 8.8-11(8) 注目すべき種の特性及び確認状況（カラシラサギ）

種 名		カラシラサギ				
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-
	環境省RL	NT			宮城県RDB	DD
	仙台市					
	学術上 重要種	減少種				
山 地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜	
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～沖縄。旅鳥、またはまれな冬鳥。				
	仙台市内の分布	若林区、宮城野区。				
	形 態	全長68cm。成鳥夏羽では後ろ頭に房状の冠羽がある。嘴は橙黄色で、目先は青い。足は黒く、脛節が淡色で足の指は黄色。成鳥冬羽では飾り羽は短くなり、目先は黄色。				
	生息環境	海岸、河口、干潟、水田、湿地、河川などに生息。				
番 号	確認状況			地点数	確認数	
⑧	平成27年度の夏季（8月）調査時に生息を確認した。			1	1	
⑨	平成28年度の春季（5月）調査時に生息を確認した。			1	1	
合 計					2	

表 8.8-11(9) 注目すべき種の特性及び確認状況（クイナ）

種名		クイナ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	要	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
	1,4	・	C	A	B	B	
(※) 種の特性	全国分布	北海道～本州。					
	仙台市内の分布	将監、三共堤、富田、鶴ヶ谷、広瀬川、大年寺山、井土浦、大沼、蒲生など。					
	形態	全長29cm。成鳥は額から尾羽までの上面が茶褐色で、黒い縦斑がある。顔から胸は青灰色で、黒い過眼線がある。下腹部は白黒の横斑。					
	生息環境	平地から低山の水辺の草地、アシ原、休耕田、水田などに生息。					
番号	確認状況				地点数	確認数	
⑦	平成26年度の冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。				2	2	
⑧	平成27年度の秋季（11月）調査時に生息を確認した。				1	1	
⑨	平成28年度の冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。				2	2	
合計						5	

表 8.8-11(10) 注目すべき種の特性及び確認状況（バン）

種名		バン					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
	1,4	・	C	B	C	C	○
(※) 種の特性	全国分布	北海道～沖縄。					
	仙台市内の分布	大沼、赤沼、広瀬川、台原、井土浦、笹屋敷、蒲生など。					
	形態	全長32cm。成鳥頭部から頸と体下面が灰色味のある黒色で、脇腹には白い縦斑がある。嘴の先は黄色で他は赤く、額板につながっている。					
	生息環境	平地から山地の湖沼、池、河川、水田、湿地などに生息。					
番号	確認状況				地点数	確認数	
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に開放水域で生息を確認した。				-	-	
②	平成26年度の秋季（9月）調査時に生息を確認した。				-	-	
③	平成27年度の夏季（8月）調査時に生息を確認した。				-	-	
④	平成23年度の夏季（7月）調査時に生息を確認した。				2	2	
⑤	平成24年度の夏季（6月）調査時に生息を確認した。				-	1	
⑦	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。				2	2	
⑧	平成27年度の夏季（6～8月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。				8	14	
⑨	平成28年度の春季（5月）及び夏季（6～7月）、秋季（9～10月）調査時に生息を確認した。				14	26	
合計						45	

表 8.8-11(11) 注目すべき種の特性及び確認状況（オオバン）

種名		オオバン					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
	・	・	・	B	B		
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～沖縄。					
	仙台市内の分布	井土浦、大沼、赤沼、蒲生、水の森公園など。					
	形態	全長39cm。成鳥は全体が黒くて、上面には青灰色味がある。嘴は白くて、額に盛り上がるように額板がある。					
	生息環境	平地から低山の湖沼、池、河川、ハス田などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に開放水域で生息を確認した。			-	-		
②	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-		
③	平成27年度の夏季（8月）及び秋季（10月）調査時に生息を確認した。			-	-		
⑤	平成24年度の冬季（1～2月）及び春季（3月）調査時に生息を確認した。			-	20		
⑥	平成25年度の秋季（11月）及び冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			13	83		
⑦	平成26年度の秋季（10～11月）及び冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			20	383		
⑧	平成27年度の秋季（10～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			19	114		
⑨	平成28年度の春季（4～5月）及び秋季（9～11月）、冬季（1月）調査時に生息を確認した。			12	149		
⑭	平成24年度の冬季（1月）調査時に水域で生息を確認した。			-	-		
合計					749		

表 8.8-11(12) 注目すべき種の特性及び確認状況（カッコウ）

種名		カッコウ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
	1,4	C	C	B	C	C	○
種 の 特 性 (※)	全国分布	北海道～九州。					
	仙台市内の分布	七北田川、鶴ヶ谷、広瀬川、台原、青葉山、定義、泉ヶ岳、将監、名取川、井土浦、蒲生。					
	形態	全長35cm。成鳥の上面は淡い青灰色で、風切は黒褐色。喉から胸は灰色。腹は白く、灰黒色の横斑がある。下尾筒は白く、羽先はわずかに黒い。					
	生息環境	平地から山地の林や草原などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
⑨	平成28年度の夏季（6月）調査時に生息を確認した。			1	1		
合計					1		

表 8.8-11(13) 注目すべき種の特性及び確認状況（イカルチドリ）

種 名		イカルチドリ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山 地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜	
1,4	C	C	B	B	・	○	
種 の 特 性 (※)	全国分布	本州以南。					
	仙台市内の分布	丸田沢、芋沢、広瀬川、名取川、七北田川など。					
	形 態	全長21cm。成鳥の額は白く、頭は暗灰色。前頭と過眼線は黒いが、コチドリより淡色。胸の黒い帯もコチドリより細くて淡色。上面は灰褐色で、体下面は白い。					
	生息環境	砂礫地がある河川、湖沼、池、水田などに生息。					
番 号	確認状況			地点数	確認数		
⑤	平成24年度の冬季（1月）調査時に生息を確認した。			-	1		
合 計						1	

表 8.8-11(14) 注目すべき種の特性及び確認状況（シロチドリ）

種 名		シロチドリ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	-	
	環境省RL	VU			宮城県RDB	NT	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種
		山 地	西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海 浜	
1,4	・	・	・	・	B	○	
種 の 特 性 (※)	全国分布	本州以南。					
	仙台市内の分布	名取川、井土浦、荒浜、蒲生など。					
	形 態	全長17cm。成鳥夏羽雄は額と眉斑は白色で、前頭は黒く、頭頂と後頭は橙黄褐色。黒い過眼線がある。成鳥冬羽と幼鳥は全体的に夏羽より淡色。					
	生息環境	海岸の砂浜、河口、干潟、河川、沿岸の造成地や埋立地などに生息。					
番 号	確認状況			地点数	確認数		
②	平成26年度の夏季（7月）及び秋季（9月）調査時に干潟及び砂浜で生息を確認した。			-	-		
⑤	平成24年度の夏季（6月）及び秋季（11月）調査時に生息を確認した。			-	10		
⑥	平成25年度の夏季（7～8月）及び秋季（9～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			12	113		
⑦	平成26年度の夏季（7～8月）及び秋季（9,11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			38	161		
⑧	平成27年度の夏季（6～8月）及び秋季（9～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			32	180		
⑨	平成28年度の春季（4～5月）及び夏季（6～8月）、秋季（10～11月）、冬季（12～1月）調査時に生息を確認した。			43	220		
⑬	平成23年度～平成29年度の春季（4～5月）及び夏季（8月）、秋季（9月）、冬季（1～2月）調査時に生息を確認した。			-	-		
⑭	平成26年度の冬季（2月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-		
⑮	平成28年度の冬季（1～2月）及び平成29年度の夏季（6月）調査時に砂浜で生息を確認した。			-	-		
合 計						684	

表 8.8-11(15) 注目すべき種の特性及び確認状況（メダイチドリ）

種名		メダイチドリ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	国際	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
種 の 特 性 (※)	全国分布	日本には旅鳥として飛来し、沖縄では少数が冬鳥。					
	仙台市内の分布	-					
	形態	全長19cm。成鳥夏羽雄の額は白く、中央に縦の黒線がある。前頭は黒く、太い黒色の過眼線につながる。頭頂と上面は褐色。喉と前頭は白く、細い黒線で縁取られている。頸側から胸は赤褐色、腹は白色。成鳥夏羽雌は、雄よりも全体的に淡色。成鳥冬羽は、夏羽の黒色と赤褐色の部分は淡褐色。					
	生息環境	海岸の砂浜、干潟、河口、河川などに生息。水田や湿地などにも入る。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
①	平成25年度の秋季（9月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-		
⑥	平成25年度の夏季（7月）調査時に生息を確認した。			1	1		
⑦	平成26年度の夏季（6～7月）及び秋季（9月）調査時に生息を確認した。			9	14		
⑧	平成27年度の夏季（6月）調査時に生息を確認した。			1	4		
⑨	平成28年度の春季（4～5月）及び夏季（7月）、秋季（9～11月）調査時に生息を確認した。			19	165		
⑬	平成23年度～平成29年度の春季（4～5月）及び夏季（8月）、秋季（9月）調査時に生息を確認した。			-	-		
⑮	平成29年度の春季（5月）調査時に干潟で生息を確認した。			-	-		
合計					184		

表 8.8-11(16) 注目すべき種の特性及び確認状況（オオメダイチドリ）

種名		オオメダイチドリ					
注目すべき種の 選定基準	文化財保護法	-			種の保存法	国際	
	環境省RL	-			宮城県RDB	-	
	仙台市						
	学術上 重要種	減少種					
山地		西部丘陵地・ 田園	市街地	東部田園	海浜		
種 の 特 性 (※)	全国分布	日本には旅鳥として飛来し、南西諸島では少数が越冬。					
	仙台市内の分布	-					
	形態	全長24cm。雌雄同色で、成鳥夏羽の額から過眼線部分は黒く、額にはわずかに白い部分がある。頭頂と上面は淡褐色で、淡色の羽縁がある。前頭から後頭、頸側、胸と胸側は淡い橙色。喉と頬、体下面は白い。成鳥冬羽は、頭からの上面は淡褐色で、各羽にわずかに淡色の羽縁がある。胸側も淡褐色で、他は白い。					
	生息環境	海岸の砂浜、干潟、河口などに生息。					
番号	確認状況			地点数	確認数		
⑬	平成29年度の春季（4月）調査時に生息を確認した。			-	-		
合計					-		